日本社会分析学会ニューズレター

2026年3号［2026年9月18日発行］

発行：日本社会分析学会事務局
〒753-8511 山口市吉田1677-1
山口大学人文学部 桑畑研究室内
編集責任者：桑畑 洋一郎（事務局長）

Tel：083-933-5242（研究室直通）
E-mail: **sasa@jsasa.org**
ホームページ: **http://jsasa.org/**
郵便振替口座：01740-0-49579
（名義）日本社会分析学会

※今号より、メールアドレスをご教示いただいている方にはメールのみでのニューズレター配信とさせていただきます。ご注意ください。

◆研究例会の報告と予定

1. 第 151 回例会（2026 年 7 月 11-12 日、島根大学）は盛会に終わりました。開催校の皆様と、ご参集いただいた皆様に感謝申し上げます。
2. 次回、**第 152 回例会**は、**2026 年 12 月 19 日(土)-20 日(日)、九州大学西新プラザ（福岡市早良区西新 2 丁目 16-23）**にて開催します。詳細はプログラムとともに次号ニュースでご案内します。

※なお、現時点で福岡のホテルが予約しにくい状況となっております。参加ご予定の方はお早目の手配をお願いいたします。

◆第 152 回例会【研究報告】募集

次回例会で研究報告をご希望の方は、**報告者名、報告タイトル、報告時間を 10 月 16 日（金）必着で事務局まで**お知らせください。また、使用予定の機器を報告申込み時にお知らせください。

報告時間は以下のいずれかを選んでください（指定がなければSとします）。

S：持ち時間 30 分（標準は報告 20 分＋質疑応答 10 分）

L：持ち時間 60 分（標準は報告 30 分＋質疑応答 30 分）

◆『社会分析』54 号【一般投稿論文】募集中

◎一般投稿論文は、**原稿〆切 10 月 1 日で募集中**です。送付先は下記です。

原稿提出期限：**2026年10月1日（木）必着**
原稿送付先　：**学会事務局（メールまたは郵送で受け付け）**
※メールでの投稿の場合は、sasa@jsasa.org まで、原稿等のファイルを添付の上お送りください。**事務局から受付確認のための返信を行いますので、事務局からの返信がない場合はお問い合わせください。**
※郵送での投稿の場合は、投稿時には、原稿等の電子ファイルが入ったメディアを送付記録が残る方法でお送りください。また、封筒に「一般投稿論文」とご明記ください（メディアの返送をご希望の方はその旨明記ください）。

◎特集論文については一般投稿の募集はしておりません。

『社会分析』へ論文を投稿される方へ

1. 投稿に際しては、『社会分析』表紙裏の**「投稿規定(2019年改正版)」**を遵守してください。
2. 英語で書かれた論文を投稿される場合には、必ず英語を母語とする方のチェックを受けたうえで、ご投稿下さい。英文タイトルについても、同様のチェックをお願いします。
3. 日本語を母語としない執筆者が日本語で投稿する場合には、必ず日本語を母語とする方のチェックを受けたうえで、ご投稿下さい。日本語タイトルについても、同様のチェックをお願いします。
4. 内容水準以前の形式的な点が守られていない原稿については、受理を保留して差し戻すことがあります。また、差し戻しに対して投稿者から迅速かつ適切な対応がなされない場合には、受理できない場合があります。

論文審査について

投稿された論文はすべて審査者2名による論文審査にかかります。審査者は編集委員ないし会員の中から適当な方にお願いします。編集委員長・特集担当者から依頼が参りますので、よろしくお願い致します。審査と改訂はそれぞれ2回までを原則とし、年明け1月末までに編集を終えるべく、おおよそ以下のような日程で動きます。

初回審査(審査員)　　4週間以内
→初回改訂(執筆者)　　4週間以内
→第2回審査(審査員)　　2週間以内
→第2回改訂(執筆者)　　2週間以内
→最終的な掲載可否判断(編集委員会、特集担当者)

審査者には審査論文とともに「論文審査票」をお送りしますので、それにしたがってできるだけ迅速にご協力ください。なお審査に当たっては、投稿者をエンカレッジする姿勢でお願い致します。立場や見解の違いは(アドバイスになるようなものは別として)、基本的には論文公開後の論争として展開いただき、審査においては「論文」としての完成度を高めることに主眼をおいていただきますよう、お願い致します。

〈書式統一へのご協力を〉

雑誌の書式統一のため、投稿者・査読者には以下の点で協力をお願いします。

◆ 投稿者は、投稿規定を遵守すること。(必ず『社会学評論スタイルガイド』をご参照ください。)
◆ 査読者は、投稿規定に準じた形式面のチェックも十分に行うこと。
◆ 投稿者は初回投稿時、原稿ファイルとともに執筆者情報のファイルを提出すること。
◆ 最終的には編集委員会で形式統一を行うので、最終稿の印字イメージと出来上がりイメージが異なることがある。この点をご了承いただきたいこと。

◆2026 年度総会報告（2026 年 7 月 11 日、島根大学）

●報告事項

(1) 庶務報告

・会員数 128 名（未承認会員含まず。前年度 140 名）
（購読会員 0 名［前年度 0 件］、購読機関 25 件［前年度 25 件］、寄贈機関 2 件［前年度 3 件］）

・活動状況

例 会　2025 年 7 月 26 日・27 日　第 149 回例会（九州国際大学※ハイブリッド）
2025 年 12 月 13 日・14 日　第 150 回例会（山口県立大学※ハイブリッド）
理事会　2025 年 7 月 26 日（ハイブリッド）
ニュース　4 回発行。

・今後とも学会活動の活性化のためにシンポジウム・講演等の企画を積極的にご提案いただきたい。

(2) 編集報告

・『社会分析』53 号を 2026 年 3 月 31 日付で発行。
特集：「予測困難な時代の社会学教育」：堤圭史郎会員に企画・編集を依頼。解題および 6 本の論文を掲載。
一般投稿：論文 5 本の投稿があり、審査の結果、研究ノート 1 本の掲載。
書評：会員著作の書評 5 本を掲載した。

・『社会分析』54 号（2027 年 3 月発行予定）について。
特集：松本貴文会員が企画・編集を担当。
一般投稿：原稿提出期限 10 月 1 日（提出先：学会事務局）。
書評：対象書籍の推薦（自薦・他薦）、提出期限 8 月 31 日（提出先: 学会事務局）。

(3) その他

・追悼文 2 本をニュースに掲載。
・日本社会福祉系学会連合の次期運営委員に髙木健志会員がご就任。

3. 議事

(1) 新入会員（2025 年 7 月 27 日以降）の承認

富山 雄太	推薦者：牧野 厚史
Wan Zhouxuan（オウ シュウケン）	推薦者：高野 和良
屈 融	推薦者：高橋 征仁
樊 城敏	推薦者：井上 智史
楊 睿瞳	推薦者：井上 智史
中島 健登	推薦者：山下 亜紀子
加峯 奈々	推薦者：山下 亜紀子
Zhang Yuhan（チョウ ユーハン）	推薦者：山下 亜紀子
平井 太規	推薦者：金本 佑太
奥 梨緒奈	推薦者：金本 佑太
西田 心平	推薦者：稲月 正
藤田 耕太朗	推薦者：稲月 正
髙橋 誠	推薦者：藤田 智子

⇒いずれも承認された。

(2) 2025 年度決算報告（含、監査報告）（会計資料参照）

⇒主に会費について、2025 年度予算時点で 100 万円を超える額で予算計上していた理由と、決算がそれと乖離していた理由について、会計の締め時期が 2024 年度会計と 2025 年度会計とで変更があったこと、また、会費請求のタイミングが 2024 年度会計締めの直前であったこと（2025 年度会計には 2 年分に近い会費が納入される可能性があったこと）、一方で 2026 年度も会費請求が 2025 年度会計の締めに近い時期であったことから、見込みほどは納入がなかったことが説明された。以上を踏まえて、監査報告も含めて承認された。

(3) 日本社会分析学会 60 周年記念行事について

⇒次回例会において 60 周年記念行事が行われる予定であり、またそのための予算も計上されていることが稲月会長より説明がなされ、承認された。

(4) 2026 年度予算案について（会計資料参照）

⇒2026 年度は従来と違う部分もあるため支出過剰であるが、できるだけ支出を押さえるべく、例えばニューズレターの原則電子化などで対応していく旨説明され、承認された。

(5) 学術論文等の即時オープンアクセスへの対応について

⇒オープンアクセス対応方針とそれに伴う編集委員会規約の改正について堤委員長より説明がなされ、原案を修正する形で承認された。承認されたものを示すと以下の通り。

日本社会分析学会編集委員会規約の一部改正に係る新旧対照表

新（改正）	旧（現行）
第 8 条　掲載原稿は、日本社会分析学会により、電子公開される。 第 9 条　掲載原稿の著作権は、日本社会分析学会に帰属する。 第 10 条　著者ならびに機関等が本誌に掲載された原稿を他の著作やデータベース等に転	第 8 条 本規約の改正は、日本社会分析学会総会の議を経ることを要する。 2 稿規定は編集委員会が別にこれを定め、理事会の承認をうるものとする。

載・翻訳する場合には、著者ならびに機関等は事前に編集委員会事務局を通じて文書等で日本社会分析学会の許可を得なければならない。 2　本誌に掲載される論文、研究ノート、根拠データ等が、即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費によるものである場合には、著者は日本社会分析学会に掲載許可の申請をすることなく、本誌の電子版公開以前に機関リポジトリ等で著者最終稿を公開することができる。 3　2 に該当する場合、それらの著作が当該競争的研究費に基づくものであること及び本誌掲載原稿であることを明記しなければならない。 第 11 条 本規約の改正は、日本社会分析学会総会の議を経ることを要する。 2 投稿規定は編集委員会が別にこれを定め、理事会の承認をうるものとする。 付則 本規約は、平成 12 年（2000 年） 7 月 15 日より施行する。 本改正規約は、2026 年度総会より施行し、2026 年 7 月 11 日より適用する。	付則 本規約は、平成 12 年（2000 年）7 月 15 日より施行する。

(6)若手会員支援方策について

⇒次回例会時の臨時総会での審議をお願いすることとし、理事会内で継続審議することとなった。

(7)その他

・今後の例会について

⇒2026 年 12 月 19 日-20 日、九州大学西新プラザ（福岡市）にて開催予定。

・今後の特集論文テーマについて

⇒54 号については松本貴文会員のコーディネートによる特集企画が進行中。

(2)2025 年度決算報告

◎会計資料

2025 年度決算報告※

	項　目	予　算（円）	決　算（円）	備　　考
収入の部	学　会　費	1,032,000	732,000	会費 147 件※前年度誤納入分差額 2,000 円含む。
	購　読　料	50,400	52,500	25 件
	利子、その他	500	22,493	ゆうちょ銀行利子、例会剰余金の寄付
	本年度収入合計	1,082,900	806,993	
	前年度繰越金	3,226,639	3,226,639	
	総　　計	4,309,539	4,033,632	
支出の部	雑誌印刷費	750,000	350,000	52 号印刷費（※53 号は次年度会計に持ち越し）
	編　集　費	60,000	74,020	53 号特集コーディネーター担当謝金、52 号編集委員長手当、53 号編集委員長手当、52 号非会員執筆謝金、53 号書評対象書籍費用
	通　信　費	100,000	97,615	ニューズレター・学会誌等郵送代（※今年度は学会誌の発送を印刷会社に委託せず）、ハガキ代
	事務局費	150,000	73,116	アルバイト費用、振込手数料、zoom pro 契約費用、事務消耗品
	事務委託費	75,000	71,500	ホームページ管理
	例会・会議費	80,000	66,559	例会・理事会開催費
	企画事業費	50,000	0	
	予　備　費	40,000	30,000	社会福祉系学会連合・社会学系コンソーシアム会費
	本年度支出合計	1,305,000	762,810	
	次年度繰越金	3,004,539	3,270,822	
	総　　計	4,309,539	4,033,632	

※　収入・支出とも 2026 年 5 月 31 日締（2025 年 6 月 1 日～）

監査報告

会計帳簿、預金通帳、現金、その他関係証拠について精査しましたところ、適正に処理されていましたことを報告いたします。

2026 年　6 月 26 日

会計監査　加来和典　印

会計監査　倉重加代　印

(3) 2026 年度予算案について

2026 年度予算案

	項　目	予　算 （円）	備　　考
収入の部	学　会　費	575,000	会費 115 件
	購　読　料	50,400	24 件
	利子、その他	500	ゆうちょ銀行
	本年度収入合計	625,900	
	前年度繰越金	3,270,822	
	総　　計	3,896,722	
支出の部	雑誌印刷費	750,000	53 号分（昨年度未執行だが総会時点では支払済 350,000 円）＋54 号 200 部（抜刷、発送委託費含む）
	編　集　費	60,000	編集担当者経費、特集謝金、書評対象書籍代
	通　信　費	100,000	ニューズレター・機関誌郵送代
	事務局費	100,000	アルバイト費用、振込手数料、zoom pro 契約、名簿印刷費、物品保管庫借用費（山口大学。18,000 円／年の 1/2）
	事務委託費	75,000	ホームページ管理
	例会・会議費	150,000	例会・理事会開催費
	企画事業費	101,500	60 周年記念シンポジウム経費等
	予　備　費	40,000	社会学系コンソーシアム会費、社会福祉系学会連合会費
	本年度支出合計	1,376,500	
	次年度繰越金	2,520,222	
	総　　計	3,896,722	

◆会員異動（届出順、敬称略）

●入会

Zhang Yuhan（チョウ ユーハン）

所属：九州大学大学院人間環境学府

研究分野：共生社会学

西田 心平

所属：北九州市立大学基盤教育センター

研究分野：社会学、社会問題、社会運動

藤田 耕太朗

所属：北九州市立大学大学院社会システム研究科

研究分野：社会学、ライフストーリー研究、エスニシティ

髙橋 誠

所属：九州大学比較社会文化研究院

研究分野：ナショナリズム論、社会変動論、スコットランド地域研究

平山 基子（正式入会は次回総会での承認を経た後）

所属：九州大学大学院地球社会統合科学府

研究分野：家族社会学、ジェンダー論

●退会

陳嘉韻、楊楊